

文武不岐

愛知淑徳学園理事長・学園長

小林素文

夢を実現した者、夢破れた者、様々のドラマがあった東京五輪。ゴルフは稲見萌寧さんが銀メダルの栄誉。その女子ゴルフ代表コーチであったのが愛知淑徳高校卒業生の服部道子さんです。

小学校四年生からゴルフを始め、本校二年生の時に全米女子アマチュア選手権で最年少優勝。テキサス大学への留学を経てプロとなり、賞金女王、メジャー三勝を含む通算十八勝と輝かしい実績をあげた服部さんは、ゴルフ一筋に、夢を抱き夢を実現



昭和60年、全米女子アマチュア選手権で優勝した当時16才の服部道子さん

したレジェンドだと思っていました。

しかし、いただいたご著書『好転力』には意外なことが記されていました。『ずっと夢と呼べるような強い目標を持っていませんでした。自らの夢を語る人を羨ましく思いました。同時に劣等感も感じ、自分がひどくくちっぽけな存在に思えてしまったことも一度や二度ではありません。』（『好転力』より、以下引用は同書）

そんな服部さんは高校時代、大学時代をどのように過ごされたのでしょうか。

*

「高校時代は学校が厳しく…勉強の成績が悪ければ（ゴルフの試合に）出場させてもらえません。…友達の協力もあり…ゴルフと勉強を共に乗り切ることができました」

そんな高校生活を送りながら全米女子アマで優勝したことにより、服部さんは一躍マスコミの寵児になりますが、「いつも学校の帰り道にグラウンド脇を通ると、ソフトボール部員たちが炎天下でとてもハードな練習をしているのです。あの練習を見る

と、いつも身が引き締まる思いでした。私はまだまだなんだと…」母から口を酸っぱくして言われた「おごらないこと」を心がけ、堅実な高校時代をおくりました。

本校卒業後進学したテキサス大学のゴルフ部では「私はチーム内で唯一の東洋人で、英語のノンネイティブスピーカー…大学の規則では勉強の成績を落とすと遠征に行けない」という厳しい環境のなか、服部さんは学業とゴルフを両立させ、国際経営学の学士を修得し、ゴルフでもオールアメリカンファーストチームに四度選出されるなど大活躍しました。その努力が認められ、ゴルフと学術に優れた学生に贈られるマリリン・スミス賞を受賞しました。

*

「留学先のアメリカの大学を卒業後は、日本で就職して結婚し、母のように家庭に入るのだらうと考えていました。」ところが、母親が帰国前に申し込んであったプロテストを受けるとトップ合格。「アマチュア時代の成績が目ざされ、私の知らないところでスポンサー契約話も、どんどん進んで

いきました。そこからは、気が付けばゴルフ漬けの毎日。あつと言う間にツアー生活は18年経ち、あの身体の弱かった私が長年プロ生活を続けるなんて、子どもの頃には全く想像もしていなかった人生です」

*

夢を語る人を羨みながらも服部さんが「一つだけ気を付けていたことがありません。それは、一生懸命目の前のことに一つひとつきちんと向き合うことでした」この姿勢こそが、愛知淑徳でもテキサス大学でも学業とゴルフを文武不岐（文と武の頑張りがどちらにもつながっていく）とし、プロゴルファーとしての成功につながり、引退後の五輪代表コーチ就任につながったのだと敬服いたします。

*

愛知淑徳は八人のオリンピック選手を輩出していますが、おごることなく、目の前のことに誠実に向き合い今日を築いてこられた服部さんは、八人のオリンピックとともに、愛知淑徳の誇りです。